

■ 親と子の都市と建築教室 2025（第 25 回）（大阪会場） 活動レポート

<まちつく万博～未来につながるまちをつくろう～>

日時：1 日目 2025 年 8 月 2 日（土）13：00～17：30

2 日目 2025 年 8 月 3 日（日）10：30～16：30

会場：大阪市立住まい情報センター 3 階ホール

大阪市立住まい情報センター、（公社）大阪府建築士会および当支部の 3 団体による共催行事として、子どもたちが設計者となり、親と一緒にダンボールや紙パイプを用いて「まち」をつくるワークショップが開催された。25 回目の開催となる今年は 1 日目の参加者が 60 名（うち、小学生 31 名）、スタッフ 51 名（うち学生スタッフ 36 名）、2 日目の参加者が 62 名（うち、小学生 31 名）、スタッフ 69 名（うち学生スタッフ 49 名）であった。

1 日目は、今回のテーマとなる「まちつく万博～未来につながるまちをつくろう～」について、学生スタッフによるプレゼン、寸劇やクイズを通じて学び、4 つのチームに分かれて各チームのテーマ（海のまち、太陽のまち、山のまち、川のまち）に従って、作りたい建物やまちのイメージを各自でスケッチで表現した後、親と学生スタッフとで協力しながらダンボールでまちを製作し始めた。2 日目は、午前から作業を開始して、最終的に子どもたちの想像力を具現化した「まち」をホールいっぱいにつくり上げた。子どもたち全員が自分の作品についてプレゼンをしたあと、海のまちグループには「しぜんとなかよしで賞」、太陽のまちグループには「ずっとつづくまちで賞」、山のまちグループには「まちつくはばくはつだ賞」、川のまちグループには「わくわくする未来で賞」を授与し、「まちつく大賞」を全チームに授与し、参加した小学生に各賞のシールと缶バッジの記念品を贈呈した。ホールでは親と子のにぎやかなやりとりと学生の強力なサポートがみられ、「まち」を作る楽しさを共有できた 2 日間となった。4 月から打ち合わせを毎月 1 回ペースで実施し、「まちつく」の成功にご尽力いただいた、住まい情報センターと（公社）大阪府建築士会の関係各位、学生スタッフには、心より感謝申し上げます。

栗山尚子、大谷康二、川辺秀憲、北山宏貴／近畿支部常議員



まちの制作風景